

答辞

春分を迎えるキャンパスにはやわらかな光が差し、春風は私たちの旅立ちを誘い、祝福するように心地良く吹き抜けています。

答辞を記すにあたり、初めに、新型コロナウイルスが世界各地で猛威を振るっており、その影響は国内にも及び緊張感が高まっています。一刻も早い事態の沈静化を願っております。このような状況の中、各研究科における学位記授与式を催してくださいましたこと、そして、開催にあたって検討を重ねてくださった皆様に心より御礼申し上げます。

大学院入学以来、私は研究に日夜取り組んで参りました。私は大学時代、本学の食品栄養学科に在籍し、誰にとっても最善の学校にしたいという思いのもと、教員志望学生の、「子どもの健康に関する理解の実態」について研究いたしました。その過程で、さらに研究を継続したいと思い、大学院に進学いたしました。大学院進学後は、中学生に障害とは何かを科学的に理解させることを目的に、からだの学びに焦点を当てた障害理解のためのカリキュラム開発を行うこととしました。なぜなら、障害がある子どもにとって障害がない子どもは人的環境となり、障害がある子どもとそうでない子どもが共生していくためには、障害理解が必要になると考えたからです。

研究を進めるにあたって実感したのは、自分の考える力の弱さでした。研究と向き合う日々は苦難を感じることもありましたが、試行錯誤しながら学んでいく中で、時に私の行く道を照らし、時に叱咤激励し、時に支えてくださったのが研究科の先生方でした。様々な専門分野に携わる先生方からご指導、ご助言をいただき、幾度も自分の考えを改める機会があり、研究を深めることができました。今日まで熱心にご指導、ご鞭撻を賜りました先生方に深く感謝申し上げます。

開発したカリキュラムをもとに、母校の中学校で研究授業を実践させていただきました。自ら作成した授業プランを学校現場で実践できたことで、研究したことの意義や成果、今後の課題を明らかにすることができました。また、実際に教壇に立った時、教師になりたいと思うきっかけとなった中学時代の先生方を思い出し、憧れに一歩近づくことができた気持ちになり、嬉しさを感じました。そして、何よりも子どもたちとの関わりが、私の研究を進める原動力となっていたことを痛感しました。学校現場でこのような貴重な経験をさせていただけたことに、厚く御礼申し上げます。

そして、私の夢の実現を応援してくれた家族。研究が上手く進められないことへの苛立ち、不安、葛藤などが入り混じり、家族に感情をぶつけてしまったこともありました。そんな時でも、家族は、私の行き場のない感情の全てを受け止めてくれました。今、こうして無事に修了を迎えることができるのも家族の支えがあったからです。本当にありがとうございました。

私はこれから、目標としていた養護教諭として、学校現場に入ることとなります。今後の道のりは難しく、悩ましいこともあるでしょう。しかしながら、その困難の中にも、子どもの成長に寄り添うことへ

の喜びや希望があると信じています。宮城学院で学んだことを噛み締め、日々自己研鑽に励み精進して参ります。

最後に、これまでご指導くださいました理事長先生をはじめとする諸先生方、職員の皆様、家族、友人、今日まで私たちを支えてくださったすべての方々に、修了生一同心より御礼申し上げます。宮城学院女子大学大学院健康栄養学研究科のさらなる発展と、皆様方のさらなるご活躍、ご多幸を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

2020年 3月19日

宮城学院女子大学大学院健康栄養学研究科

健康栄養学専攻

第10回修了生 金森 友希